

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	ピアノレッスンⅣ	
コース名	幼児保育コース			担当者	大澤	
学 年	3年			教科番号	3701	単位数 3.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別	必修	
			○			
授業概要	ピアノ個人レッスン					
到達目標	ピアノの基礎演奏技術の習得を目標とする。保育現場ですぐに活用できる、日常保育曲や音楽リズム曲の弾き歌いが出来るようにする。幼児曲・和音感・リズム感等が更に上達するよう、進度にあった伴奏付けを学ぶ。就職試験対策曲を習得する。					
教材名	音楽・ピアノ教本（近畿大学教本） こどものうた100（チャイルド本社） 続こどものうた200（チャイルド本社） 授業内でプリント配布					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園教諭とリトミック指導員の経験を有する教員がその経験を活かし、ピアノの指導を行う					
履修に あたっての 留意点	毎日課題曲1曲×5分の個人練習を行いましょ。授業開始20分以降の遅刻は欠席扱いとなります。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	35%	5%	30%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	①就職試験対策曲練習
2	①就職試験対策曲練習
3	①就職試験対策曲練習
4	①おはようのうた ②あさのうた ③おへんたのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがきましょう ⑪実習園課題曲 ⑫就職試験対策曲
5	①おはようのうた ②あさのうた ③おへんたのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがきましょう ⑪実習園課題曲 ⑫就職試験対策曲
6	①おはようのうた ②あさのうた ③おへんたのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがきましょう ⑪実習園課題曲 ⑫就職試験対策曲
7	①おはようのうた ②あさのうた ③おへんたのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがきましょう ⑪実習園課題曲 ⑫就職試験対策曲
8	①おはようのうた ②あさのうた ③おへんたのうた ④おかえりのうた ⑤さようならのうた ⑥せんせいとおともだち ⑦おつかいありさん ⑧ありさんのおはなし ⑨ことりのうた ⑩はをみがきましょう ⑪実習園課題曲 ⑫就職試験対策曲
9	①実習園課題曲
10	①実習園課題曲
11	①実習園課題曲
12	①実習園課題曲
13	①幸せなら手をたたこう ②就職試験対策
14	①思い出のアルバム ②就職試験対策
15	①あわてんぼうのサンタクロース ②就職試験対策
16	①かもつ列車 ②就職試験対策
17	試験曲公示
18	①思い出のアルバム ②就職試験対策
19	①あわてんぼうのサンタクロース ②就職試験対策
20	①かもつ列車 ②就職試験対策
21	試験曲公示
22	試験対策練習
23	試験対策練習
24	試験対策練習
25	試験対策練習
26	試験対策練習
27	試験対策練習
28	試験対策練習

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	相談援助	
コース名	幼児保育コース			担当者	森下	
学 年	3年			教科番号	3702	単位数 1.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○	○				
授業概要	ソーシャルワークの知識、技術、方法について理解する。相談援助職としての保育者としての視点、態度について学ぶ。					
到達目標	①相談援助の理論、方法、技術について説明できる。②相談援助の具体的展開過程について説明できる。③支援計画の立案の方法について説明できる。④面接技術を身につけ、活用できる。⑤事例検討を通して、保護者への相談場面に対応するための心構えを身につける。⑥自己の性格特性を知り、専門職としての価値に基づき判断することができる。					
教材名	配布プリントを使用					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	保健所にて発達相談員経験と大学での実習指導経験を有する教員がその経験を活かし社会福祉援助活動の基礎について講義、演習を行う					
履修に あたっての 留意点	事例検討や演習では、積極的に参加、発言すること。また参加するだけでなく、振り返りを重視する。学期末試験を行うが、評価にあたっては授業態度、参加状況を重視する。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	30%	10%	40%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	相談援助の意義 保育士による相談援助の意義、子どもの最善の利益
2	相談援助の機能 相談援助に関わる専門職、ソーシャルワークの4つの機能、ソーシャルワーカーが所属する組織
3	援助者としての自己理解 エゴグラム、個人の価値と専門職の価値
4	保育とソーシャルワーク 相談援助とソーシャルワーク、保育所に求められるソーシャルワーク機能、保育所の専門性と強みを生かすソーシャルワーク
5	相談援助の過程 相談援助の展開過程の理解、面接技法
6	相談援助の技術 対人援助職としての基本的態度、バ이스テックの7原則
7	相談援助の計画、記録 情報収集、アセスメントと支援計画の立案について、相談援助の様々な記録方法
8	相談援助の多様な専門職との連携 協働と連携、連携の意義、連携する機関
9	社会資源の活用、調整、開発 フォーマル、インフォーマルな社会資源、分野別の社会資源活用・調整・開発
10	事例検討 障害が疑われる子どもの保護者への対応について
11	事例検討 虐待が疑われる子どもの保護者への対応について
12	学期末試験

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	子どもの保健 I ②	
コース名	幼児保育コース			担当者	大井	
学 年	3年			教科番号	3703	単位数 2.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための幼児が罹患する疾病、その疾病に予防対策について学ぶ。					
到達目標	小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための疾病予防に寄与するにあたり、幼児が罹患する疾病についての知識を得て、その予防対策について理解する。					
教材名	竹内義博・大矢紀昭／編「よくわかる子どもの保健」（ミネルヴァ書房）					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	医療関連の教育経験を有する教員がその経験を活かし子どもの保健について講義を行う					
履修に あたっての 留意点	本講義と並行して実施される実習のなかで本講義によって付与された知識の実践例を確認し、将来の幼児保育および教育の現場で自ら考え行動する姿勢を心がける。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	60%	10%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	精神保健(1)—子どもの心身の健康と心身症
2	精神保健(2)—発達障害のある子どもとその対応
3	精神保健(3)—育児環境と母親のメンタルヘルス
4	精神保健(4)—虐待と子どものトラウマとその対応
5	子どもの疾病(1)—子どもの疾病の特徴、慢性疾患の子どもの抱える問題
6	子どもの疾病(2)—先天性疾患
7	子どもの疾病(3)—循環器疾患
8	子どもの疾病(4)—呼吸器疾患
9	子どもの疾病(5)—消化器疾患
10	子どもの疾病(6)—泌尿器疾患
11	子どもの疾病(7)—代謝、内分泌疾患
12	子どもの疾病(8)—中枢神経疾患
13	子どもの疾病(9)—アレルギー疾患
14	子どもの疾病(10)—血液、腫瘍性疾患
15	子どもの疾病(11)—整形外科疾患
16	身体障害のある子どもとその対応
17	細菌性感染症
18	ウイルス性感染症
19	感染症対策と予防接種
20	筆記試験

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	子どもの保健Ⅱ	
コース名	幼児保育コース			担当者	大井	
学 年	3年			教科番号	3704	単位数 1.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための幼児が遭遇する事故、その事故に予防対策について学ぶ。					
到達目標	小児保健は子どもが健康な状態にいることをめざすが、健康を保持するだけでなく増進することも重要な目標（母子保健法第3条）である。幼児保育および教育者を志す者にとって、その目標を達成するための事故予防に寄与するにあたり、幼児が遭遇する事故についての知識を得て、その予防対策について理解する。					
教材名	竹内義博・大矢紀昭／編「よくわかる子どもの保健」（ミネルヴァ書房）					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	医療関連の教育経験を有する教員がその経験を活かし子どもの保健について講義を行う					
履修に あたっての 留意点	本講義と並行して実施される実習のなかで本講義によって付与された知識の実践例を確認し、将来の幼児保育および教育の現場で自ら考え行動する姿勢を心がける。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	60%	10%	10%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	子どもの事故の特徴—屋内
2	子どもの事故の特徴—屋内
3	子どもの事故の特徴—屋外
4	子どもの事故の特徴—屋外
5	事故による心身の被害と救急処置
6	食中毒
7	保育現場における衛生管理
8	子どもの事故防止対策と安全管理
9	不慮の事故
10	事故防止に向けた職員間の連携と組織的取り組み
11	災害への備え
12	筆記試験

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	乳児保育	
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田	
学 年	3年			教科番号	3705	単位数 2.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○	△				
授業概要	児童福祉における乳児保育について、その概要と意義を把握し理解する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 乳児の特質と発達について理解する。 ・ 発達と個性に応じた保育の実践を理解する。 ・ アクティブラーニングを理解する。 					
教材名	乳児保育					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし乳幼児の保育方法や保護者支援について授業を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席をしない。 ・ まじめに取り組むこと 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	20%	10%	40%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	今後の講義について
2	乳児保育の基本的な考え方。
3	子どもの主体性の尊重と自己の育ち。
4	個々の子どもに応じた援助や受容的・応答的関わり。
5	子どもの体験と学びの芽生え。
6	多様な保育について。
7	1日の流れで考える生活・遊びと環境の構成。
8	0歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際。
9	1歳児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際。
10	1～3歳未満児の発育・発達を踏まえた生活・遊びの援助の実際。
11	子ども同士の関わりとその援助の実際。
12	子どもの心身の健康・安全と情緒の安定を図るための配慮。
13	集団での生活における配慮。
14	環境の変化や移行に対する配慮。
15	乳児保育における計画と実際。
16	テスト

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	言語表現	
コース名	幼児保育コース			担当者	近藤	
学 年	3年			教科番号	3706	単位数 1.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	<p>保育内容の「言葉」の領域についての理解を深めていく。 多くの絵本や紙芝居を手に取り、読み方の研究や時期や年齢に合わせた絵本選択が出来るような学びの時間とする。またパネルシアターやペープサートなど言葉を通した子どもとのコミュニケーション技法を学ぶ。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園教育要領・保育所保育指針の領域「言葉」のねらいと内容について理解する ・ 言葉の獲得のプロセスと実体験の大切さを学生自身で感じ、その重要性について学ぶ ・ 環境の中で言葉の育ちを育んでいく保育者としての技術と思慮深さを習得する 					
教材名	配付プリント					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	<p>児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし言語を通した表現方法について講義し演習を行う</p>					
履修に あたっての 留意点	<p>図書館や地域の公立の図書館等で絵本を借りて授業に臨む</p>					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	40%	30%	30%	0%	100%

回数	講義内容
1	保育者の役割、領域「言葉」と他領域との関係
2	発達とことば
3	具体的場面から乳幼児のことばの意味を考える
4	具体的場面から乳幼児と文字との出会いを考える
5	ペープサート作成
6	ペープサート作成
7	パネルシアター作成
8	パネルシアター作成
9	絵本記録作成
10	絵本記録作成
11	自分が選んだ絵本の発表
12	自分が選んだ絵本の発表

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習事前事後指導Ⅱ	
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田	
学 年	3年			教科番号	3707-1	単位数 0.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△	○				
授業概要	保育実習（保育所）を円滑に行うために必要な事柄を学習する。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育実習（保育所）責任実習の準備を行う。 ・ 模擬演習を円滑に行う。 					
教材名	保育実習事前事後指導テキスト（近畿大学九州短期大学通信教育部）					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし実習指導を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 本番同様の模擬演習のつもりで臨む。 ・ 欠席をしない。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	0%	50%	50%	0%	100%

回数	講義内容
1	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価
2	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価
3	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価
4	責任実習に向けての模擬演習と反省・評価

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習事前事後指導Ⅱ	
コース名	幼児保育コース			担当者	近藤	
学 年	3年			教科番号	3707-2	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△	○				
授業概要	保育所実習、教育実習を中心に授業を展開する。1ターム目から2ターム目を通して責任実習の指導案作成と実践的な力を身に付ける。これらを踏まえて保育所実習、教育実習の課題とねらいを設定し実習に臨むことが目的である。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業、実習を基に子どもの発達に合わせた指導案を作成できる。 ・実習の目的を理解しねらいと課題を設定できる。 ・実習に活かせる自分の強みを発見するため手遊び・パネルシアター・紙芝居・絵本等何事にも進んで挑戦し実践できる。 ・実習で感じたことを記録に残すことができる。 					
教材名	教育実事前事後指導・近畿大学九州短期大学通信学部テキスト					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし実習指導を行う					
履修に あたっての 留意点	実習に直結する内容です。一回一回の授業を大切にしてください。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	20%	40%	40%	0%	100%

回数	講義内容
1	実習課題の整理
2	実習課題の整理
3	実習課題の整理
4	実習準備
5	実習準備
6	実習準備
7	実習準備
8	実習準備
9	実習の振り返り・お礼状の作成
10	実習の振り返り・お礼状の作成
11	実習の振り返り・お礼状の作成
12	実習の振り返り・お礼状の作成
13	施設・保育実習準備(課題の作成等)
14	施設・保育実習準備(課題の作成等)
15	施設・保育実習準備(課題の作成等)
16	施設・保育実習準備(課題の作成等)
17	施設・保育実習準備(課題の作成等)
18	施設・保育実習準備(課題の作成等)
19	実習の振り返り・お礼状の作成
20	実習の振り返り・お礼状の作成
21	実習の振り返り・お礼状の作成
22	実習の振り返り・お礼状の作成
23	実習を経て、自分の課題と強みを考える。
24	実習を経て、自分の課題と強みを考える。

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習事前事後指導Ⅲ	
コース名	幼児保育コース			担当者	近藤	
学 年	3年			教科番号	3708-1	単位数 2.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△	○				
授業概要	<p>保育所実習、施設実習を中心に授業を展開する。1ターム目から2ターム目は主に責任実習の指導案作成と実践的な力を身に付ける。4ターム目からは学生の実習先の施設を中心に施設の役割や概要、対象者の暮らしとは何かを理解する。これらを踏まえて保育所実習、施設実習の課題とねらいを設定し実習に臨むことが目的である。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの授業、実習を基に子どもの発達に合わせた指導案を作成できる。 ・実習の目的を理解しねらいと課題を設定できる。 ・実習に活かせる自分の強みを発見するため手遊び・パネルシアター・紙芝居・絵本等、何事にも進んで挑戦し実践できる。 ・それぞれの実習先を中心とする「施設の役割」「施設での保育士の役割」とは何かを理解している。 ・施設実習での目標・課題を設定できる。 ・実習で感じたことを記録に残し、振り返り、課題を発見できる。 					
教材名	教育実事前事後指導・近畿大学九州短期大学通信学部テキスト					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	児童館、小・中学校での勤務経験を有する教員がその経験を活かし実習指導を行う					
履修に あたっての 留意点	それぞれの施設の対象者をあらかじめ知っておくこと。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	20%	40%	40%	0%	100%

回数	講義内容
1	<ul style="list-style-type: none"> ・保育士資格を取るのになぜ施設実習が必要なのか ・施設実習で感じてきてほしいこと
2	指導案作成※個別指導
3	指導案作成※個別指導
4	指導案作成※個別指導
5	指導案作成※個別指導
6	指導案作成※個別指導
7	指導案作成※個別指導
8	指導案作成※個別指導
9	指導案作成※個別指導
10	指導案作成※個別指導
11	指導案作成※個別指導
12	指導案作成※個別指導
13	指導案作成※個別指導
14	指導案作成※個別指導
15	指導案作成※個別指導
16	指導案作成※個別指導
17	指導案作成※個別指導
18	指導案作成※個別指導
19	施設実習の振り返り
20	施設実習の振り返り
21	知的障害者施設で暮らす利用者についての理解を深める 援助方法などを確認する
22	児童養護施設の役割やそこで働く保育士の役割について学ぶ

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習事前事後指導Ⅲ	
コース名	幼児保育コース			担当者	森下	
学 年	3年			教科番号	3708-2	単位数 0.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△	○				
授業概要	施設実習に向けて、実習先への理解を深め、実習に臨む自身の目標を明確にする。					
到達目標	①実習先の概要について説明できる。 ②実習先の利用者のニーズ、必要な支援について説明できる。 ③実習における到達目標を立て、そのための自己の課題が何か明らかにする。					
教材名	配布プリント等による					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	保健所にて発達相談員経験と大学での実習指導経験を有する教員がその経験を活かし実習指導を行う					
履修に あたっての 留意点	各自の実習に向け、目的意識をもって主体的に授業に臨むこと。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	20%	60%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	実習の意義について考える
2	実習先訪問について
3	実習日誌の書き方と活用
4	実習課題の明確化

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	発達心理学	
コース名	幼児保育コース			担当者	長坂	
学 年	3年			教科番号	3709	単位数 3.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	保育園・幼稚園・その他関連施設において乳幼児や児童らと関わる専門家として、基礎的理論を多角的に理解する。また、知識の習得だけではなく、実際のケースを紹介しながら考察を深めていくなど、現場で活かせる視点を十分に養う。					
到達目標	1. 発達に関する諸理論の差異を理解しながら学び、生物学的・心理学的・社会的などの多角的視点による発達過程及び発達課題を習得する。 2. 机上だけの学習に留まらぬよう、各理論や現象が実際の現場へどのように応用されるのかについて、実習を振り返りながら考察を深める。 3. 現場において子どもや保護者などを見つめ支える力を十分に養えるよう、実際のケースを提示しながら、学生がさまざまなことを感じる力を身に付ける。					
教材名	沼山博・三浦主博（2019）編著 子どもとかかわる人のための心理学 保育の心理学、子ども家庭支援の心理学への扉 萌文書林 担当教員の作成するワークシート式プリント					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	母子生活支援施設、精神保健福祉センターでの相談員経験を有する教員がその経験を活かし乳幼児の発達についての講義を行う					
履修に あたっての 留意点	・授業中は積極的発言をし、クラス全体で授業を展開してほしい。 ・担当教員が独自に作成したプリントを配布するので、オリジナルのノートを作成する努力をしてほしい。 ・ファイル提出及び期末試験を実施する。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	40%	20%	20%	20%	0%	100%

回数	講義内容
1	オリエンテーション:授業概要、方針、学習目標、評価方法の説明 導入:発達心理学とは何か
2	発達とは何か:発達の考え方、とらえ方
3	発達とは何か:現場における「発達」のとらえ方 各発達理論:Bronfenbrenner、Vygotskyなどの理論
4	各発達理論:エリクソン、ハヴィガーストなどの理論
5	各発達理論:フロイト、ウィニコット、マラーなどの理論
6	各発達理論の復習:それぞれの相違点 胎児期:胎児期の発達
7	胎児期:胎児期の発達 乳幼児期:乳幼児期の発達
8	乳幼児期:乳幼児期の発達 幼児期:幼児期の発達
9	幼児期:幼児期の発達 児童期:児童期の発達
10	児童期:児童期の発達 各時期の発達に関する復習
11	知的発達:ピアジェの発達理論、表象、象徴、記号
12	言語発達:知的発達との関わり、言語の獲得、言語の発達過程
13	言語発達:言語の発達過程、文法的理論 社会性の発達:対人関係の発達
14	社会性の発達:対人関係の発達 道徳性の発達:フロイト、ピアジェ、コールバーグの理論
15	道徳性の発達:コールバーグ、ギリガンの理論
16	遊びの発達:子どもの遊びの発達と見立て
17	中間まとめ:ワークシート式プリントの配布と解説
18	さまざまな環境の子ども:虐待、DV世帯、若年母子家庭、精神疾患の母子などの実態とその支援
19	愛着の発達:愛着理論、愛着の発達過程
20	情動の発達:知・情・意の発達、情動の種類 情動の発達:情動の発達段階、アンガーマネジメント
21	子どもの精神疾患:場面緘黙、チック、行為障害など
22	子どもの精神疾患:愛着障害、性別違和など
23	試験対策:これまでの復習と試験に関わる項目別まとめ
24	学生の希望する内容講義:事前に学生へアンケートを実施し、希望のあった心理学に関する講義(これまでは、恋愛心理学、虐待世帯への支援、精神疾患など)

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育・教職実践演習	
コース名	幼児保育コース			担当者	久保田	
学 年	3年			教科番号	3710	単位数 8.5
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△	○				
授業概要	<p>保育科三年間の学習と実習と通して身に付けた保育士・幼稚園教諭に求められる資質・能力を確認し使命感と子どもに対する愛情に根付いた実践的指導力とは何か確認する。</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育士・幼稚園教諭としての使命感、保育・教育的愛情について省察する。 ・ 社会性や対人関係能力を身に付ける。 ・ 子どもの発達状況や心身の状況を理解をし、適切なクラス運営を行う能力を身に付ける。 ・ 保育内容当等の指導力について基本的事項を身に付ける。 					
教材名	<p>保育・教職実践演習ガイドブック（近畿大学九州短期大学） 保育・教職実践演習</p>					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	<p>幼稚園副園長の経験がある教員がその経験を活かし責任自習の模擬授業や卒業研究の指導を行う</p>					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 欠席しないこと。 ・ 模擬演習に向けて熱意を示すこと。 ・ 楽しく演習に取り組むこと。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	25%	25%	50%	0%	100%

回数	講義内容
1	ガイダンス
2	ガイダンス
3	幼稚園責任実習に向けての模擬演習と評価・反省会
4	〃
5	〃
6	〃
7	〃
8	〃
9	幼稚園責任実習に向けての模擬演習と評価・反省会2
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	幼稚園実習に向けて確認をする。
16	希望者対象の模擬演習と評価・反省会
17	対象者に向けての反省会
18	〃
19	2回目の責任実習に向けての模擬演習と反省、改善点の討議
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	総括
30	〃
31	後期の各自の演習の課題を決める
32	〃

回数	講義内容
33	学生が自己課題を自覚し演習に取り組む
34	''
35	''
36	''
37	''
38	''
39	''
40	''
41	''
42	''
43	''
44	''
45	''
46	''
47	''
48	''
49	''
50	''
51	''
52	''
53	''
54	''
55	''
56	''
57	''
58	''
59	''
60	''
61	''
62	''
63	演習発表の最終確認および準備
64	''

回数	講義内容
65	演習発表の最終確認および準備
66	演習の発表(プレゼン)
67	//
68	最終評価と反省

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	情報リテラシ	
コース名	幼児保育コース			担当者	戸川	
学 年	3年			教科番号	3711	単位数 5.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○					
授業概要	情報化社会におけるコンピュータ、パソコンの基礎知識を身に付ける。環境設定されたパソコンを利用（使う）能力を修得する。幼児教育者としての情報モラルを修得する。					
到達目標	①情報表現（2進数、10進数）を理解することができる。 ②処理手順（BS、KJ法等）を学ぶことができる。 ③パソコンの基礎（コンピュータの5大装置）を理解することができる。 ④インターネットの基礎知識を学ぶことができる。 ⑤インターネットの利用ができる。 ⑥情報社会におけるコンピュータシステムを学ぶことができる。 ⑦情報モラルを学ぶことができる。					
教材名	J検 情報活用3級 完全対策公式テキスト 日本能率協会マネジメントセンター 発行者 長谷川隆					
資格の 取得目標	一般社団法人職業教育・キャリア教育財団主催 情報活用試験3級合格を目標とする。					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	OA商社、コンピュータ教育関連機関の経験を有する教員がその経験を活かしパソコンの基礎知識と情報モラルの講義を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テキスト、筆記用具（マーカー等）を必ず持参する。 ・忘れた場合は、授業前に申し出ること。 ・スマートフォン、PDA等の使用は禁止する。 ・授業の居眠り、授業に関係のない私語、授業妨害は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	30%	0%	30%	40%	0%	100%

回数	講義内容
1	学習目標、検定について、テキスト(目次)の確認、1章 情報と表現と処理手順
2	1章 情報の処理手順
3	2章 パソコンの基礎(1) コンピュータの特徴と種類
4	2章 パソコンの基礎(2) パソコンの仕組みと取扱い
5	2章 パソコンの基礎(3) パソコンの発展と性能
6	2章 パソコンの基礎(4) パソコンの基本構成
7	2章 パソコンの基礎(5) ソフトウェアの種類と役割
8	2章 パソコンの基礎(6) オペレーティングシステム(OSの役割)
9	2章 パソコンの基礎(7) オペレーティングシステム(プロセス管理・ファイル管理)
10	2章 パソコンの基礎(8) 入力装置の種類
11	2章 パソコンの基礎(9) 出力装置の種類
12	2章 パソコンの基礎(10) 主記憶装置と補助記憶装置
13	2章 パソコンの基礎(11) 補助記憶装置の種類
14	3章 インターネットの基礎(1) ネットワークの基礎知識
15	3章 インターネットの基礎(2) インターネットの仕組み
16	4章 インターネットの利用(1) インターネットのサービス
17	4章 インターネットの利用(2) メールソフトの利用
18	4章 インターネットの利用(3) メールソフトの利用
19	4章 インターネットの利用(4) WWWの利用
20	4章 インターネットの利用(5) WWWの利用
21	5章 情報機器の基本操作(1) 入出力インタフェース
22	5章 情報機器の基本操作(2) アプリケーションソフトの基礎知識
23	5章 情報機器の基本操作(3) ワードプロソフトの機能と活用
24	6章 情報社会とコンピュータ(1) 生活とコンピュータシステム
25	6章 情報社会とコンピュータ(2) 身近なコンピュータシステム
26	6章 情報社会とコンピュータ(3) 学校や職場におけるコンピュータシステム
27	6章 情報社会とコンピュータ(4) 社会におけるコンピュータシステム
28	6章 情報社会とコンピュータ(5) ネットワーク社会の問題点
29	6章 情報社会とコンピュータ(6) 高度情報化の進展と課題
30	7章 情報モラル(1) 情報モラルの重要性
31	7章 情報モラル(2) ネチケツ
32	7章 情報モラル(3) 個人情報保護と著作権

回数	講義内容
33	検定対策 過去問題 ①
34	検定対策 過去問題 ②
35	検定対策 過去問題 ③
36	検定対策 過去問題 ④
37	検定対策 過去問題 ⑤
38	検定対策 過去問題 ⑥
39	検定対策 過去問題 ⑦
40	検定対策 過去問題 ⑧

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	情報処理Ⅳ	
コース名	幼児保育コース			担当者	戸川	
学 年	3年			教科番号	3712	単位数 4.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	△		○			
授業概要	<ul style="list-style-type: none"> ・プレゼンテーション技術を学ぶ。 ・プレゼンテーションツールとしてのアプリケーションソフトPowerPoint2016の利用技術、機能を学び、電子絵本や紙芝居の作成、実習報告会のプレゼンテーション力を修得する。 					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ①プレゼンテーションとは何かを学ぶことができる。 ②ツールとしての視覚資料を作ることができる。 ③PowerPoint2016の機能を修得することができる。 ④PowerPoint2016を使って、電子絵本、紙芝居を作ることができる。 ⑤PowerPoint2016を使って、実習報告資料を作ることができる。 ⑥効果的なプレゼンテーションを行うことができる 					
教材名	プリント教材、練習問題					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	OA商社、コンピュータ教育関連機関の経験を有する教員がその経験を活かしプレゼンテーション技法についての講義、実習を行う					
履修に あたっての 留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・USBメモリ、筆記用具（マーカー等）を必ず持参する。 ・スマートフォン、PDA等の使用は禁止する。 ・授業中の居眠り、関係のない私語、授業妨害は禁止する。 					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	35%	30%	35%	0%	100%

回数	講義内容
1	学習目的、プレゼンテーションとは
2	プリント教材配付、PowerPointの基本操作(1)
3	PowerPointの基本操作(2)
4	PowerPointの基本操作(3)
5	課題1の発表 「電子絵本・紙芝居」について
6	課題1の作成(1)
7	課題1の作成(2)
8	課題1の作成(3)
9	課題1の作成(4)
10	課題1の作成(5)
11	課題1の作成(6)
12	課題1の作成(7)
13	課題1の作成(8)
14	課題1 プレゼンテーション
15	課題2の発表 「保育実習(施設)報告会」
16	課題2の作成(1)
17	課題2の作成(2)
18	課題2の作成(3)
19	課題2の作成(4)
20	課題2の作成(5)
21	課題2の作成(6)
22	課題2の作成(7)
23	課題2の作成(8)
24	課題2 プレゼンテーション
25	課題3の発表 「教育実習報告会」「保育実習(保育所)報告会」
26	課題3の作成(1)
27	課題3の作成(2)
28	課題3の作成(3)
29	課題3の作成(4)
30	課題3の作成(5)
31	課題3の作成(6)
32	課題3 プレゼンテーション

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習 I (施設)	
コース名	幼児保育コース			担当者	実習園	
学 年	3年			教科番号	3713	単位数 5.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別	必修	
			○			
授業概要	<p>保育士資格を取得するために児童福祉施設(保育所以外)で行う実習である。乳児院・児童養護施設・母子生活支援施設などの養護施設や障害児入所施設・障害者支援施設などの障害者施設で実習を行う。それぞれ10日間の実習で、次の内容を体験的に学ぶ。①施設における1日の流れ②子どもや障害者への理解を深める③施設保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ④施設の技術や記録方法について実践的に学ぶ⑤保育士を志すものとしての自覚を高める</p>					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 施設現場で養護と療育を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することが出来る。 ・ 実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。 ・ 自分なりの保育観や子ども観を深め確立させる。 					
教材名	保育実習日誌、保育実習事前事後指導					
資格の取得目標	保育士資格					
授業内容と教員の実務経験の関連性	児童福祉施設で勤務している保育者がその経験を活かし実習の指導を行う					
履修にあたっての留意点	<p>保育実習事前事後指導・幼児と音楽表現・以下の指導法①人間関係②健康③環境④言葉⑤造形表現⑥音楽表現(指導法)・教育心理学・幼児の心理学・教育原理・保育原理・社会的養護Ⅰ・子ども家庭福祉、全ての科目を履修していることが実習にできる要件です。その他の要件は近大の学習便覧で確認すること。</p>					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	0%	50%	0%	20%	30%	100%

回数	講義内容
1	以下の観点から施設における保育がどのようになされているかを理解する
2	①施設の内容、機能について理解する(1日の流れ、子どもや障害者の活動等)
3	②施設における保育者の職務内容、役割などを理解する。
4	③子どもや障害者を取り巻く社会や家族の問題について理解する。
5	④日誌の書き方を学ぶ。
6	担当保育者の指導や助言に従い、積極的に保育実習に参加すること
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	〃
16	〃
17	〃
18	〃
19	〃
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	〃
30	〃
31	〃
32	〃

回数	講義内容
33	''
34	''
35	''
36	''
37	''
38	''
39	''
40	''

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	保育実習Ⅱ	
コース名	幼児保育コース			担当者	実習園	
学 年	3年			教科番号	3714	単位数 5.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別	必修	
			○			
授業概要	保育実習Ⅱまたは保育実習Ⅲを履修する。保育実習Ⅱでは前回の保育所実習を生かし、子どもの年齢や発達に応じた保育展開、状況に応じた保育の実践、さらに子育て支援としての保育所の役割を踏まえた保育実践に努める。保育実習Ⅲでは児童福祉施設(保育所以外)での用語についての専門的な理解と技術を学び、知識、技術、判断力を養う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育現場で保育実習を経験することにより、これまで学習してきた理論や技術が、保育の実践と具体的にどのように繋がるか理解することが出来る。 ・ 実践を通じて保育の技術、能力を向上させる。 ・ 自分なりの保育観や子ども観を深め確立させる。 ・ これまでの実践を通して学んだ技術と理論を基盤とし保育士として必要な資質、能力、技術を修得し向上させる。 ・ 子育て支援をするために必要な知識・技術とニーズに対する理解力・判断力 					
教材名	保育実習日誌、保育実習事前事後指導					
資格の取得目標	保育士資格					
授業内容と教員の実務経験の関連性	児童福祉施設で勤務している保育者がその経験を活かし実習の指導を行う					
履修にあたっての留意点	保育実習Ⅰを履修し保育実習事前事後指導・幼児と音楽表現・以下の指導法①人間関係②健康③環境④言葉⑤造形表現⑥音楽表現（指導法）・教育心理学・幼児の心理学・教育原理・保育原理・社会的養護Ⅰ・子ども家庭福祉、全ての科目を履修していることが実習にでる要件です。その他の要件は近大の学習便覧で確認すること。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割合	0%	50%	0%	20%	30%	100%

回数	講義内容
1	保育実習Ⅱは以下の観点から保育所としての実践力を高めていくよう努める。
2	①子どもの年齢や発達に応じた保育やあそびの展開を行う
3	②その場の状況に応じた子どもへの対応と保育について理解する
4	③問題のある子どもや保護者に対する対応について理解する
5	④延長保育や休日保育、育児相談など子育て支援事業の理解
6	⑤保育の計画、実践、観察、記録及び自己評価などの実践と理解(部分実習・全日実習・査定実習)
7	⑥保育士としての自己の課題を明確化する
8	できるだけ部分実習や全日実習を行い実践力を養うよう努めること
9	保育実習Ⅲは以下の観点から保育所としての実践力を高めていくよう努める。
10	①児童福祉施設やその他の社会福祉施設の社会的役割と施設保育士の役割
11	②児童福祉施設やその他の社会福祉施設における利用児・者と家族支援の理解
12	③養護、療育内容・方法の理解
13	④多様な専門職としての連携
14	⑤保育士としての自己課題の明確化
15	〃
16	〃
17	〃
18	〃
19	〃
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	〃
30	〃
31	〃
32	〃

回数	講義内容
33	''
34	''
35	''
36	''
37	''
38	''
39	''
40	''

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	教育実習③	
コース名	幼児保育コース			担当者	実習園	
学 年	3年			教科番号	3715	単位数 5.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
			○			
授業概要	専門教育科目で獲得した幼児教育に関する知識、技能を活用しながら実践的指導力を体験的にまた総合的に高めていくことを目標とする。この目標を達成するために指導実習（責任実習）を主とする実習を行う。					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 幼稚園における教育内容や幼稚園の機能について、体験を通して理解する。 ・ 幼稚園教諭の職務および役割について、体験を通して理解する。 ・ 幼稚園での1日の今日行く活動を振り返り観察記録を作成することができる。 ・ 責任実習の指導計画を立案することができる。 					
教材名	教育実習事前指導					
資格の 取得目標	幼稚園教諭2種免許状					
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	幼稚園で勤務をしている幼稚園教諭がその経験を活かし責任実習の指導を行う					
履修に あたっての 留意点	教育実習事前事後指導・幼児と音楽表現・以下の指導法①人間関係②健康③環境④言葉⑤造形表現⑥音楽表現（指導法）・教育心理学・幼児の心理学・教育原理・教育課程総論・教育方法論・教職概論、全ての科目を履修していることが実習にでる要件です。その他の要件は近大の学習便覧で確認すること。					
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	50%	0%	20%	30%	100%

回数	講義内容
1	1回目の実習を基礎として、専門教育科目で実習したあらゆる知識・技能を統合しながら以下のような学習内容を獲得して行く。
2	①部分実習、全日実習の指導計画の作成及び指導
3	②幼稚園教諭としての保育技能の習得及び態度の養成
4	③幼稚園と家庭との連携の内容と方法の理解
5	指導教諭の指導と助言を受けながら、教育活動や園務に積極的に従事する
6	〃
7	〃
8	〃
9	〃
10	〃
11	〃
12	〃
13	〃
14	〃
15	〃
16	〃
17	〃
18	〃
19	〃
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	〃
30	〃
31	〃
32	〃

回数	講義内容
33	''
34	''
35	''
36	''
37	''
38	''
39	''
40	''

令和2年度 年間授業計画（シラバス）

学科名	福祉保育科			教科名	キャリアデザインⅢ	
コース名	幼児保育コース			担当者	戸川	
学 年	3年			教科番号	3716	単位数 8.0
授業形態	講義	演習	実験・実習・実技	必修・選択の別		必修
	○	△				
授業概要	積極的な就職活動の意識付けを目標とする 履歴書の書き方、実習園への対応等の知識を習得する					
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育園および幼稚園、福祉施設等の情報収集ができる ・ 個人で情報収集ができる ・ 常に試験準備をしておくことができる ・ 福祉系の就職セミナー及び講演の参加 ・ 社会人常識マナーの習得 ・ 保育、教育実習の事前・事後指導を受講し進路を決定できる ・ 責任実習指導案を作成できる ・ 実習日誌の研究を行える ・ 実習報告（実習報告会の実施）を実施し後輩に分かりやすく指導することができる 					
教材名	保育の基本用語 幼稚園・保育所実習パーフェクトガイド					
資格の 取得目標						
授業内容と 教員の実務経 験の関連性	OA商社、コンピュータ教育関連機関の経験を有する教員がその経験を活かし就職指導等を行う					
履修に あたっての 留意点						
評価基準	①試験・検定	②提出物	③授業態度	④出席状況	⑤外部評価	合計
割 合	0%	20%	40%	40%	0%	100%

回数	講義内容
1	・履歴書、郵送用封筒の作成(保育／教育実習用)
2	・幼稚園実習での指導案の作成
3	〃
4	〃
5	・幼稚園実習、施設実習のオリエンテーション準備、オリエンテーションの実施・指導案作成
6	〃
7	〃
8	〃
9	教育実習フィードバック・お礼状の作成と発送
10	〃
11	〃
12	施設実習の準備
13	〃
14	施設実習フィードバック・お礼状の作成と発送、学校祭準備
15	〃
16	・夏期中のボランティア活動のスケジュール表作成
17	保育実習(施設)の指導案作成、施設実習準備
18	〃
19	〃
20	〃
21	〃
22	〃
23	〃
24	〃
25	〃
26	〃
27	〃
28	〃
29	〃
30	〃
31	〃
32	〃

回数	講義内容
33	保育実習、施設実習準備
34	〃
35	〃
36	〃
37	〃
38	〃
39	〃
40	〃
41	〃
42	〃
43	〃
44	実習の振り返り 等
45	〃
46	〃
47	〃
48	〃
49	〃
50	〃
51	〃
52	〃
53	〃
54	内定承諾書・お礼状の書き方・内定を辞退するときの対応・内定がとれなかったときの対応・内定後の過ごし方
55	〃
56	〃
57	〃
58	・入社日の諸注意(早期実習の確認等)・身だしなみの確認・社会人としての心構え
59	〃
60	〃
61	〃
62	3年間の総まとめ
63	〃
64	〃